

活動事例紹介

Discover Blue 特定非営利活動法人ディスカバーブルー

I. ディスカバーブルーについて

特定非営利活動法人ディスカバーブルー（2011年2月24日法人格取得）

代表理事 水井涼太 博士（環境学） 横浜国立大学発ソーシャル・ベンチャー

理念：Life with the Ocean ～いつまでもこの海と暮らしていくために～

目的：海の生物・生態系に関する知識およびそれらを知る機会を提供することで、一般市民の海に関する理解増進を図り、持続可能な「人」と「海」との新しい関係構築に寄与する。

II. 背景、目指すもの

「海」は身近な公共物として、マリンスポーツをはじめ、普段の散歩やジョギングなど気軽に利用できる場を提供する親しみのある空間ですが、学校教育でも海の生物や生態系はほとんど扱われず、普及教育システムも不十分で、海の生物や生態系を知る機会は陸上の生物・生態系に比べ極端に限られています。また、海は様々な形で利用されていますが、個人レベル、産業レベル、行政レベルにおいても、それぞれがまったく別々に海を利用し、海の生態系や環境に関する情報共有もされていません。さらに、陸上に比べて海の生態系や環境は把握しにくい上に、行政の管理も縦割りかつ限定的です。持続可能な「人」と「海」との関わり合いを構築するためには、一般市民を含め海に関わる全ての人が公共物である海とその生態系についての理解を深め、みまもっていく必要があると考えています。

現在の海をめぐる問題を解決し、新しい持続可能な「人」と「海」との関わり合いを構築するためには、まず、一般市民の海への無知・無関心を解消し、海は公共物＝自分たちのものとしての意識を高める必要があります。特定非営利活動法人ディスカバーブルー

（以下、Discover Blue）は、そのためのアプローチとして、まず、「人」と「海」をつなぐかけ橋となるために、専門的な知識をもとに、一般市民の海や海の生物・生態系に対する理解増進を通して、「海」のバリューチェンジを起こします。これによって、夏の海水浴や花火大会、各種マリンドIVINGなど、何かを行う「場」として捉えられていたものを、未知の生物や多様な生物との出会いを通して、驚きと楽しみに満ちた世界であることを実感し、多くの一般市民に海や海の生物・生態系により関心を持ってもらうことを目指します。さらに、一般市民も参加して、海を知り、みまもるシステムを構築することによって、海を取り巻く社会のソーシャルイノベーションを巻き起こすことで、「海」を「守るべき遠くの何か」ではなく、「守るべき自分たちのもの」として大切にしていこうとする価値観を広めていきたいと考えています（図-1）。

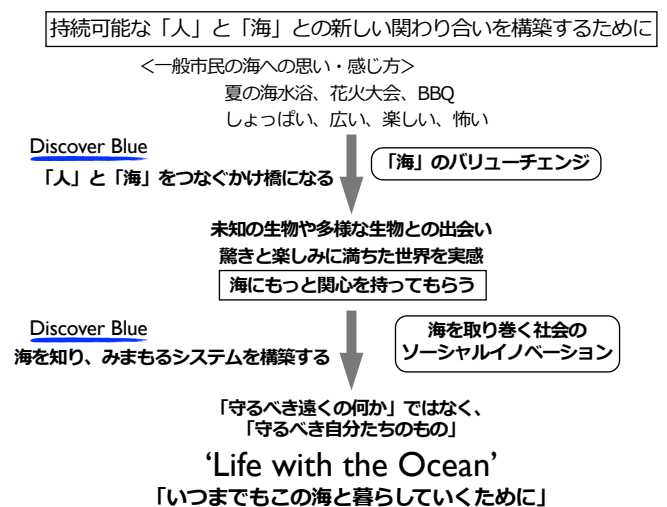


図-1 Discover Blueの課題解決へのアプローチ

Ⅲ. ディスカバークブルーの事業

・「人」と「海」をつなぐかけ橋となる事業

専門的な知識に基づき、生物観察会や研修等のイベントの企画実施、海中の写真や動画等を通じて、「海や海の生物・生態系を知る驚きと喜び」を提供します。



磯の生物観察会



老人ホームでの観察会



小学校での出張授業

・「海」を知り、みまもるシステムを構築する事業

海に関わるすべての人々が海と海洋生態系をみまもる「目」となり、市民が主体となる海をみまもる、「市民参加型海洋生態系モニタリングネットワーク」の構築を将来的に目指しています。このネットワークでは、会員をはじめとし、漁師やサーファー、ダイバー、釣り人、その他海に関わるすべての人々が、普段の海での活動を通して得た、海洋生物や生態系に関する情報をディスカバークブルーが集積し、それを学術的なデータベースへ提供することで、一般市民の普段の活動が人類の海や海洋生物、海洋生態系の知識や保全のための基礎的情報となることが期待されます(図-2)。これによって、Discover Blueが一般市民の海への想いを受け止め、役立たせることで、海をみまもることの充実感や満足感を提供することができます。

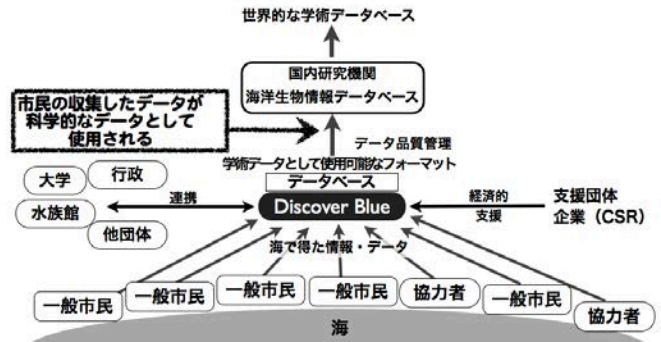


図-2 市民参加型海洋生態系モニタリングネットワーク概念図

・いつまでもこの海と暮らしていける社会を構築する事業

海辺の自然に対する地域住民の理解増進、ステークホルダーとの合意形成と連携ネットワークの構築、そして自然を活かした観光の振興による魅力ある地域づくりを実施・支援します。

Ⅳ. ディスカバークブルーの実績

主な活動実績

2011年

- 4/17 都内老人ホームでの生物観察会の実施 (対象：25名)
- 5/7 神奈川県釣りインストラクター連絡機構総会において講演
- 6月～9月 真鶴町立遠藤貝類博物館海の学校事業への協力 (県内小学生等への生物観察指導) 延べ15回 (対象：575名)
- 8/27 県立公園でのプランクトン観察会の実施 (指定管理者様からのご依頼) (対象：5名)
- 9/15 騒音制御工学会において講演
- 10/14 湯河原町吉浜小学校での地域の海の生物・生態系の学習指導の実施 (対象：35名)

2011年10月～2012年3月

神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業「Life with the Oceanまなづる ～海を学び、海に親しむ場づくり～」の実施 (次ページに詳細)

2012年

- 6/26 小田原市富士見小学校で地域の海の生物・生態系に関するイベント実施 (真鶴町岩漁業協同組合と共同)
- 8/2 NPO法人科学技術教育ネットワーク サマープログラムにおいてプランクトン観察会の実施
- 8/16～17 帝京大学中学校 海洋研修の実施
- 8/27～28 帝京大学高等学校 生物特別授業の実施
- 8/29 内閣府 新しい公共支援事業連絡調整会議にて成果報告
- 9/10 茅ヶ崎市室田小学校において地域の海の生物・生態系の学習指導の実施 (予定)
- 9/17 JAF会員向け 磯の生物観察会の実施 (予定)

神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業

「Life with the Oceanまなづる ～海を学び、海に親しむ 場づくり～」(2011.10～2013.3 真鶴町と協働)

目的：「公共物：海」に関するマルチステークホルダー(複数の利害関係者)と連携して、沿岸の環境保全と利用を促進し、真鶴町の豊かな海の魅力を活かした、持続可能な「人」と「海」のとの関わり合いを持った社会を構築する。

活動内容

- ・ 会議体の設置 町内の海に関わるステークホルダーと協議会を設置し、海の自然を活かした活動の連携促進(真鶴町、真鶴町漁協、岩漁協、観光協会、横浜国立大学臨海環境センターが参画)
- ・ 海と親しめる場づくり(町立遠藤貝類博物館と共催) <これまでに2,402名の方に海と親しむ場を提供>
 - ① 一般向け「海のミュージアム」の実施 2012.8.30現在 21回実施 **639名参加**
磯の生物/プランクトン観察会、水中映像上映会、講演会等の実施(今後13回実施予定)
 - ② 町内児童向け「真鶴自然こどもクラブ」の実施 2012.8.30現在 8回実施 **152名参加**
冬の真鶴半島探検、春の磯の生物観察(今後3回程度、実施予定)
 - ③ 町内外学校向け「海の学校」の支援 2012.8.30現在 31回実施 **1,611名に指導**
磯の生物/プランクトン観察指導、ビーチコーミング指導(今後も随時実施)
- ・ 海と親しめる事業の創出 横浜国立大学、町内2漁協と協力して、海と親しめる事業を実施予定



「海のミュージアム」プランクトン観察会



「海のミュージアム」磯の生物観察会



「海のミュージアム」水中映像上映会



「真鶴自然こどもクラブ」

冬の真鶴半島探検



磯の生物



プランクトン

受賞・助成獲得実績(代表理事 水井涼太個人対象の受賞及び助成を含む)

- ・ 2009年12月 KSPベンチャービジネス・スクール 特別賞受賞 ビジネスプラン「Life with the Ocean」
- ・ 2010年 7月 神奈川県ソーシャルベンチャー事業化支援モデル事業(起業助成)採択
- ・ 2010年 9月 iSB公共未来塾 社会起業ビジネスプラン・コンペティション入賞 社会的起業育成支援事業コンソーシアム横浜事務局 起業支援事業(内閣府「地域社会雇用創造事業」の一環)
- ・ 2011年 2月 かながわビジネスオーディション2011 奨励賞受賞
- ・ 2011年 8月 神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業採択(真鶴町と共同提案)
プロジェクト名 「Life with the Ocean まなづる」 2011年10月～2013年3月(実施中)

V. パートナーの皆様とできること、お願いしたいこと。

パートナーシップ支援事業 応募事業テーマ

いつまでもこの海と暮らしていくために、わたしたちができること。

～Life with the Ocean かながわ～

<ディスカバーブルーがパートナーの皆様にごできること>

観察会や講座等の企画・実施

水中景観の写真や動画の提供

海の生物観察指導のノウハウの提供

海での遊び方の指導

海の生物や生態系に関する専門的知識の提供（博士号、修士号取得スタッフがいます）等



観察会等の実施



講座等の実施

海中写真を使った普及啓発ポスター



<パートナーの皆様にご期待すること>

ディスカバーブルーの活動にご賛同いただき、「いつまでもこの海と暮らしていける社会」の実現のため、一人でも多くの方に「海や海の生物・生態系を知る驚きと喜び」を伝えていただきたいと思います。形はどのようなものでも構いません。

【パートナーシップの例】

社員研修や顧客サービスとしての観察会実施

普及啓発のための共同商品開発・販売

活動の普及広報への協力


小学校等への出張授業支援

寄附付き商品の販売

活動資金、運営資金の提供

等々

上記の例にとらわれず、皆様のお持ちの資源を活用させていただけるようなパートナーシップを組ませていただければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。



いつまでもこの海と暮らしていくために、わたしたちができること。
～Life with the Ocean かながわ～

手をかしていただけませんか。

一緒に「夢」を見ましょう。

子どもの頃に出会った海の生き物、
あの時の興奮、そして、夏の海の匂い。

自分の子や孫に同じ経験をさせてあげたいと思いませんか。

いつまでもこの海と暮らしていきたいと思いませんか。

持続可能な「人」と「海」との関わり合いを持った社会。

そんな「夢」を叶えたいと思っています。

まずは、一人でも多くの人に海とそこに暮らす生き物を見てもらう。

そしたらきっと、好きになる。

好きになったら、大切に思ってくれる。

手をかしてください。

みんなが海を好きになるように。

Discover Blue

特定非営利活動法人ディスカバーブルー